

J E A S 理事会

万防機構
樋口新理事長挨拶



樋口理事長



稲本会長



工業会 日本万引防止システム協会（J.E.A.S.、稲本義範会長）は2月7日、東京都四谷にある高千穂交易センターで第5回理事会を開催した。営利活動法人全国万引犯罪防止機構の新理事

長である樋口建史氏（元警視総監、元ミヤンマー大使）の就任あいさつが行われた。樋口新理事長のあいさつは以下。

万防機構は、ご承知かもしれませんが、創設20年であり、現実的な創設者は高千穂交易だったのです。その本社でこのような機会を頂けて何か強い絆のような物を感じております。

今日は稲本会長から「3分間で心に響く話をしろ」という指があったのですが（笑）正直申し上げると今日は、心からお願ひに参りました。お願いは2点あります。竹花前理事長が、随分がんばり万防機構の事業内容を充実させましたが、惜しいくらいは財政基盤がついていきません。

J.E.A.S.の多くの皆さんには入会頂いていますが、是非さらに多くの皆さんに入会頂けないものかというところが1点、それから万防機構のホームページにバナー広告のスペースを設けているのだけれども、このバナー広告に掲載をお願いできないかというお願いで

ございます。私もこのところ、あちこち、お願いに回っていると言目には「入会したら何のいい事があるのですか」と言われます。先ほこ皆様に、お手元へ配布させて頂いた資料にさやかな入会メリットがあることをまとめました。

私も現役時代から安全安心まちづくり、事件事故の起こらないレジリエント（回復力のある）のある社会づくりというのが、一貫したテーマで取り組んできたのですけれども、

今、万引犯罪の全体を見るとご承知のとおり小売業界の総売上上の0.71%が不明ロスであり近江元副会長（万防機構・ロス対策士普及委員会）がいらっしゃるのでピクピクしながら話をしているんですが、0.71%を110兆円に換算すると8400億円の不明ロスがあって、そのうちの41%が万引被害でございまして、3500億円の年間被害が発生しています。

これを1件当たり1万円の被害だったとして、3500万件の犯罪が発生しているのです。単価が10万円としても3500万、私も元警察官ですから通常の計算の仕方は、1件1名の被害者なので、そうすると少なくとも3500万人もの万引犯罪人が跋扈（はつごう）している実態でございまして、非常に大きな社会問題です。

かつ、甚大な被害ですから、被害企業にとっては被害もさることながら経営にとっても非常に大きな課題であると思います。

昨日（6日）、警察庁が犯罪統計を発表しました。もっぱらの話題が特殊詐欺なのですが、その中には投資詐欺、ロマンス詐欺等のターゲットの被害金額が約2000億円、大きな問題意識が社会にもたれております。警察は懸命に捜査に取り組んで

いますし対策の在り方が検討されています。特殊詐欺の場合は全ての被害が認知されています。それに引き比べ、おそらく万引犯罪の場合には認知率が0.71%という非常に低い特殊事情もあるのですけれども3500億円の被害が発生しながら社会にきちっとした問題意識が持たれていない。これは20年活動してきましたが、万防機構の責任でもあり、今後の大きな取組課題でもあると思っています。

万防機構は2つの活動の柱がございまして1つは世の中の規範意識がしっかりと定まらない、万引というものは絶対ダメ運動というのを展開していく。それからもう1つの柱は、万引も形態が大きく2つあって犯罪ビジネスとしての万引で組織的犯罪としていかに対処するかという取組。万防機構そのものに基本的な知識や技術があるわけではございませんので、万防機構としては座敷を設けて広く被害企業の皆さん、防犯機器の販売に携わる企業の皆さん、テーマによっては捜査当局・警察にも入って

らって随時タイムリーに情報連絡会議を実施する。そして対策の在り方を検討し精度を高めていく。例えば最近の例ではセルフレジ対策会議は1つの良い事例なるかと思えます。このような万引対策のプラットフォームのような役割を果たしていくというのが万防機構の大きな責任ではないかと考えております。ぜひ皆さま方にも会員として議論の場にご参画を頂ければと存じます。

J.E.A.S.と万防機構は言うなれば対策の車の両輪であるかと思えます。今後ともぜひ連携を深めさせて頂きまして、大きな社会問題の取組を進めて行きたいと存じます。